

2010年

11月2日（火曜日） ある ある あるの心、ありがとうの心、あきらめない心

- 「網野高校・丹後活性化プレゼンテーション大会」 -

本日、網野高校企画経営科の皆さんによる「丹後活性化プレゼンテーション大会」が開催されました。この大会、今年で3回目で“丹後の活性化”をテーマに、生徒の皆さんの若々しい発想で周辺の環境から材料や魅力を発見し活性化への企画づくりをしていくというもので、まちにとっても生徒にとってもとても意義深い取り組みをしていただいていると思う。

この大会の開始に先立って、私から紹介させていただいたのが「ある ある ある」の詩。明治から昭和にかけて生涯を過ごされた、中村久子さんの詩です。中村久子さんは小児期に両手両足を失った後も生活に必要なことは何でも自分でやりこなし、ヘレンケラー女史からも「私より偉大な人」と賞賛を送られたような筆舌しがたい、素晴らしい人生をおくられた方で、あるとき次の詩を残されました。

ある ある ある  
さわやかな秋の朝  
「タオル取ってちょうだい」  
「おーい」と答える良人がある  
「ハイ」という娘がおる  
歯をみがく  
義歯の取り外し かおを洗う  
短いけれど指のない  
まるいつよい手が 何でもしてくれる  
断端に骨のない やわらかい腕もある  
何でもしてくれる 短い手もある  
ある ある ある  
みんなある  
さわやかな秋の朝

何か不平不満のかけらも一切なく、「ある ある ある みんなある」とさわやかに御境涯をうたいあげられる御見事さはとても感動的で尊崇を深くするものです。

私は、この「ある ある ある」の心、久子さんのご心情の深さに比べればひとかけらであったとしてもこの心の姿勢が何事にも大切で、地域の活性化を目指すうえでも、日常の境遇、環境の中から豊かさにどう気づき、宝を発見していくか、という視線が欠

かせません。ぜひ、若い皆さんには、この「ある ある ある」の心を各人ごとに深く味わっていただき、まわりの中からたくさんの宝を発見してほしいと願っています。

また、「ある ある ある」の心は、「ありがとうの心」でもあります。ありがとうの心によって、ある ある ある と、いろんなことに気づかされ、いろんなことがぐぐっとはっきりと見えてくる。目が届かなかった所、意を留めなかった所から支えていただいたり導いていただいたりしているもの、宝の原石や恵み、そして可能性、いろんなことに気づかせていただくことができる。そんな「ありがとうの心」も大切にしてほしい。

そして、あきらめない。あきらめない心。大きな可能性のあることであればあるほど、大きな飛躍、発展をのぞめる事柄であればあるほど、そのための道程には乗り越えなければならぬ課題や壁は高い。困難が一見立ちふさがる。だけど、失敗はそれ自体、成功への糧である。困難の中にこそ解決のタネは入っており、困難を糧にタネを育てていく、あきらめず、粘り強く取り組んでいく姿勢が必要だ。可能性は無限大。「あきらめない心」が大切だ。

ある ある あるの心、ありがとうの心、そして、あきらめない心。若者には、この大会に臨み、そして、日常の生活や活動の中でもこの「三つのあ」の心を永く大切にしたい、と心から願っています。